



発刊のごあいさつ

三輪区長 石井 顕助



温故知新 古きを尋ね、新しきを知る。私は、自分たちが住んでいる地域の歴史をよく知ることによって新しい時代の歩むべき道を展望することができると思っています。

わが町・三輪区は、三輪神社を核として、市指定文化財の波宇也踊りや夏秋の祭礼、三輪神楽、幟差し、御当など神事につながる行事や三田青磁など歴史と伝統のある文化を展開してまいりました。

今日の三輪区は、私たちの祖先がたびかさなる災害や数多くの試練にも負けず、自然を守り、文化を育てて伝承されてきた足跡の積み重ねであると考えています。現代に生きる私たちは、折りにふれ先人たちの貴重な血と汗の結晶に接してまいりましたが、こうした伝統ある地域特性も、ともすれば日々の生活にかまけて、その基盤を見失いがちになっています。

これまで三輪区には、区単独の歴史をまとめた書物はありませんでした。そこで、私たちは先人の遺業を讃えると共に、郷土を支えてこられた先人の活躍に感謝し、その文化的遺産を記録したいと考えました。より豊かな明日の三輪区をつくり出すひとつの事業として区役員並びに三輪財産区や区内の長老に諮って「三輪区史」の発刊を企画しましたところ、賛同していただきました。

幸い編集に際しては、地域史の編集に造詣が深い初代三田市立図書館長、岸田達男氏にお願いしましたところ、

快く引く受けていただくことができました。また、区内に編集委員会を設け、二年間にわたって、熱心にご研究、ご検討をいただき、新たな史実も明らかにされ、わかりやすく親しみやすい区史にさせていただきました。

本書が完成するまでには、財産区議員の皆様方のご理解をいただき、また、編集顧問で明治四十年生まれの山見理一、杉内義夫両氏からいろいろご教示をいただきました。また、編集専門委員の藪内茂、浮田信夫、寺本昭、井殿清の各氏には再三お骨折りいただきました。その間に市行政、三田ゴルフクラブ、三輪神社、来迎寺をはじめ区の内外を問わず、多数の皆様方から快く資料や写真の提供をいただきました。関係各位に深く感謝の意を表し、心より厚くお礼申し上げます。

市制四十周年の記念すべき年に、区民の皆様のお手元にお届けすることができ、誠に感慨深く喜びにたえません。この一書が広く愛読されてふるさと三輪のあゆみが理解され、区民の郷土愛と連帯感が一層強まり、地域社会への関わりも高まるものと願っています。この「三輪区史」の歴史からより多くのことを学び、豊かな三輪区になるように願うとともに、まもなく訪れる二十一世紀の世代への贈物になればと思いつつ、発刊のごあいさつとさせていただきます。

平成十年四月

三輪区史の発刊に寄せて

三田市長 塔下真次



三田市が市制施行四十周年を迎えるこの記念すべき年に、三輪区が総力を挙げて「三輪区史」を発刊されますことに敬意を表するとともに、心からお慶び申し上げます。

三輪区は、古代から三輪神社を中心として集落が形成され、あの神秘的な波宇也踊り、ユーモラスな表情を見せる三輪神楽、勇壮で豪快なほりさしなど、伝統文化がいまもしっかりと息づいているところでもあります。また、江戸時代には古美術品としても評価のある三田青磁を生んだところとしても知られています。

今回、これら先人が培われた歴史的環境や生活の営み、さらにはその文化的遺産を記録して、区の発展に役立つとともに、未来への贈り物にしようという理念のもとに編集に取り組まれ、地域の歴史をまとめて、ここに区史として刊行されますことは、誠に意義深いことであると考えます。

私たちの三田市は、人口が十万人を越え「心のふれあう田園文化都市」をめざして着々とその歩みをすすめています。貴区におかれましては近年とくに区民の増加とともに、地域社会に必要な近隣同志の豊かなコミュニティの醸成をめざして毎年活発な活動を続けられています。この区史がいつまでも区民の心のふるさとの地を伝え、伝統を大切に守りながら、新たな飛翔への足がかりとなることを心よりお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

発刊によせて

三田市教育長 杉尾 武



すばらしい三輪区史の発刊を心よりお祝い申し上げます。

三輪地区は三田市のなかでも多くの文化遺産があります。三田盆地で稲作が始まった頃の集落遺跡で三輪小学校校庭で発見された三輪・餅田遺跡、江戸時代後期に生産され、中国青磁と見間違えるほど優れた焼き物を生産した三輪明神窯などの遺跡や無形民俗文化財に指定されている三輪神社波宇也踊りが継承されております。

また、三輪神社参道に続く旧街道筋には今も伝統的な町並みが残り、神社の秋祭りには屋台が軒を連ね、だんじりが町中を練り歩き、多くの市民が集う場となっております。そこには古き良き時代を残した「ちよつと昔の三田の原風景」を感じることができます。

「心のふれあう田園文化都市」をめざして変貌する三田市にとって地域、地域の特有の文化の継承が画一化される中で、地域文化をいかに次代に伝えることができるかが大きな課題であります。こうした中で「三輪区史」の発刊は、市民の郷土に対する愛着や理解を深める上で大変重要なものであります。その内容には古い伝統だけではなく、継承されるべき伝統がそこにあります。

編集にあたられた方々、特に三輪区の方々の郷土を愛する心とご尽力に敬意と感謝を申し上げます。

凡 例

- 一、本書は三輪区のあゆみを取り扱いましたが、叙述の関係でそれ以外にも及んでいるところがあります。
- 一、文中の年号は日本年号を使い、適宜その下に（ ）で西暦を付記しました。
- 一、本文の記述は原則として、当用漢字を使用しましたが、それ以外の漢字については適宜、フリガナを付けました。
- 一、文中の氏名については敬称略としました。
- 一、本文に記載以外の主な参考資料、参考文献については、巻末に一括して記しています。

題 字 三輪区長 石井顕助

見返し 表 三輪村全図（明治13年）

裏 三輪区付近の航空写真（昭和30年代）